

出題分析			
試験時間	75 分	配点	150 点
		大問数	2 題
分量 (昨年比較)	〔 減少 同程度 増加 〕	難易度変化 (昨年比較)	〔 易化 同程度 難化 〕
<b>【概評】</b> 〈現代文〉 問題文中に傍線がない出題は例年どおり。例年の全学日程 1 の出題形式どおり、最終設問に記述問題が出題され、選択式の設問はすべて内容説明問題であった。 〈古 文〉 選択肢が似かよった表現なので、問題文と選択肢のつきあわせだけでなく、選択肢どうしの見比べも必要であり、一つひとつの解答に時間がかかる点も例年の出題形式どおりである。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	現代文 (評論) 外山滋比古 『思考の整理学』  ○行数 : 65 行	じかに接している物理的世界 (= 第一次的現実) に根差した思考は軽視されているが、真に創造的でありうると論じる文章。問 2 の選択肢 c は「一般に読書人は」が誤り。問 5 の選択肢 d は「第一次的現実にもとづく思考、知的活動に注目する」理由として「知的でなくなるので」としている点が不適當。  ※ (昨年度) 評論、126 行、8 問 (8)	標準  〈問題文〉 標準  〈設 問〉 標準
二	古文 (平安・作り物語) 紫式部 『源氏物語』  ○行数 : 23 行 ○和歌 2 首を含む	光源氏が須磨へ退去する前に、紫の上との別れを惜しむ場面。問 1 は「あるまじきことさへ」の「さへ」を見落とさないようにする。問 7 は「この影のやうにや」の「や」を疑問でとる。問 9 の記述問題は、傍線部直前の助詞「て」に着目して主語を確定する。  ※ (昨年度) 平安・作り物語、28 行、10 問 (10)	標準  〈問題文〉 標準  〈設 問〉 標準

※「行数」は問題文の行数。関西大学の問題文は通常 57 字/行 (20 行/頁)。

※昨年度のデータは、2/5 の試験問題にもとづく。

設問構成 (設問数・形式・内容)													
大問 番号	設問数 (枝問総数※)	選択式 枝問数	記述式 枝問数	漢字	内容 説明	理由 説明	全文 把握	空欄 (脱文) 補充	主語 確認	現代 語訳	訓読 訓点	語句 文法 知識	その他
一	8 問 (8)	6	2	2> <b>1</b>	6> <b>1</b>								
二	9 問 (9)	8	1		8					1> <b>1</b>			

※「枝問総数」は、各設問（小問）に含まれる枝問も個々に数えた場合の全設問（小問・枝問）の総数。設問形式・内容別の設問数も、これと同様の方法で算出した（ただし漢字の読み・書き取りの設問は、枝問に分かれている場合も設問単位で「1問」と数える）。

※「設問内容」の「>」の後の**太字斜体の数字**は、記述式の枝問数を示す。

合格のための学習法
<p>〈現代文〉 傍線がないので、解答範囲を絞ることが難しい。問題文だけでなく、選択肢どうしも見比べて、正解の選択肢を検討しよう。</p> <p>〈古文〉 解答の際は、問題文と選択肢との対応だけでなく、同時に選択肢どうしも見比べることで解答時間を短縮することができる。また、正しい選択肢を選ぶためには、単語の意味や人物関係などを適切に押さえられるよう、基本的な語彙力・読解力を身につける必要がある。</p>